

## 重症心身障害児（者）病棟で勤務する看護師の 仕事に対するやりがいと価値のおき方に関する一考察

永田真実子<sup>1)\*</sup> 榎智子<sup>1)</sup> 大井弥生<sup>1)</sup> 橋本由美子<sup>1)</sup> 柳浦京子<sup>1)</sup>  
奥田玲子<sup>2)</sup>

- 1) 国立病院機構鳥取医療センター看護部 4 病棟
- 2) 鳥取大学医学部保健学科基礎看護学講座

### A study of job satisfaction and values of nurses working at a ward for children (persons) with severe motor and intellectual disabilities

Mamiko Nagata<sup>1)\*</sup>, Tomoko Enoki<sup>1)</sup>, Yayoi Ohi<sup>1)</sup>, Yumiko Hashimoto<sup>1)</sup>,  
Kyoko Yagiura<sup>1)</sup>, Reiko Okuda<sup>2)</sup>

- 1) The 4th Ward, Department of Nursing, Tottori Medical Center
- 2) Department of Fundamental Nursing,  
School of Health Sciences,  
Tottori University Faculty of Medicine

\*Correspondence: 鳥取市三津 876 鳥取医療センター4 病棟

#### 要旨

重症心身障害児（者）病棟は、言語的コミュニケーションが困難な患者が多く、患者自身が看護に対してどのように受け止めているのか把握することが難しい。また、日々の看護に変化が乏しい現状もあり、看護師は仕事に対してやりがいを感じにくいのではないかと考えていた。そこで、A 病院重症心身障害児（者）病棟に勤務する看護師は、何にやりがいを感じ、また価値をおいているのかを調査することで、仕事へのモチベーションを高めるきっかけづくりになり、ひいては患者サービスの向上に役立つのではないかと考え、質問紙を用いて調査を行った。その結果、「看護志向性」、「スタッフ間の人間関係」、「病棟への所属感」に価値をおいていることが分かった。また、調査していく中で、「医師との人間関係」、「変革力」にはあまり価値をおいていないことが分かった。鳥取臨床科学 10(1), 24-33, 2018

#### Abstract

Many patients at wards for children (persons) with severe motor and intellectual disabilities find it challenging to communicate verbally, making it difficult to determine how patients themselves regard the care they receive. As the daily duties of nurses also undergo little change, we felt that nurses might find it difficult to experience job satisfaction. Therefore, we used a questionnaire to investigate what nurses working at a ward for children (persons) with severe motor and intellectual disabilities felt satisfaction in and where their values lie in order to determine methods of increasing nurse job motivation and improve patient services. Results indicated

that nurses' values lay in nurse intentionality, human relationships with staff and sense of belonging to the ward. In the course of our investigation, we also found that nurses did not place much value on human relationships with doctors or reform power. *Tottori J. Clin. Res.* 10(1), 24-33, 2018

**Key words:** 重症心身障害児（者）、看護師の仕事のやりがい、仕事に対する価値のおき方、看護師間の人間関係; children (persons) with severe motor and intellectual disabilities, nurse job satisfaction, work values, human relationships amongst nurses

## はじめに

重症心身障害児（者）は、疾患の特性により、言語的なコミュニケーションが困難な患者が多く、実施した看護に対して患者の反応を確認することは難しい。そのため、患者がどう受け止めているのか把握が困難であり、長期的に評価しないと看護の効果の有無が分からない。また、疾患の特性から、日々の看護に変化が乏しいため、仕事のやりがいにつながりにくいとの意見がスタッフから聞かれることもあった。浅井ら<sup>2)</sup>は、「重症心身障害児（者）施設に勤務する看護師の仕事の満足度と現職場の継続意志には、仕事の満足度と看護師の自己実現が直接的に影響し、管理システムは仕事の満足度を介して現職場への継続意志に最も影響する要因であった。」と述べている。

この様に、重症心身障害児（者）病棟に勤務する看護師を対象とした職務満足度と継続意志に影響する要因の先行研究はみられるが、仕事に対する“やりがいの”先行研究は少ない。そこで我々は、今回の研究においては、A病院重症心身障害児（者）病棟に勤務する看護師は仕事にやりがいを感じているのか、どんなことに価値をおいているのかを明らかにすることで、仕事へのモチベーションを高めるきっかけ作りになり、患者サービスの向上に繋がるのではないかと考え、今回、重症心身障害児（者）病棟に勤務する看護師の仕事に対するやりがいとその実態を調査し分析したので、報告する。

## I. 研究目的

重症心身障害児（者）病棟に勤務する看護師の仕事に対するやりがいと価値のおき方の関連性を明らかにする。

## II. 研究方法

### 1. 研究対象

A病院の3つの重症心身障害児（者）病棟に勤務する看護師（看護師長、看護研究者を除く）87名。

### 2. 研究期間

平成29年9月1日～平成29年12月31日まで。

### 3. データの収集方法・手順

#### 1) データの収集方法

(1) 中山ら<sup>2)</sup>の質問紙を用いた無記名自記式質問紙（図1）による調査。

(2) 研究の趣旨は文書をもって説明した。回答は2週間以内に、各病棟に設置した回収箱へ個別投函とした。回答用紙の提出をもって同意を得たとした。

#### 2) 調査項目

##### (1) 対象属性

性別、年代、看護師経験年数、重症心身障害児（者）病棟経験年数。

##### (2) 仕事に対するやりがい

重症心身障害児（者）病棟に勤務する看護師の現在の仕事に対するやりがいについて、「1：ない」、「2：あまりない」、「3：ややある」、「4：ある」の4件法にて、研究対象者に回答を求めた。

##### (3) 仕事に対する価値のおき方

中山ら<sup>2)</sup>の「看護婦の仕事に対する価値のおき方と満足度」の尺度を用いた。この尺